

11 神明神社と小曲寺跡

神明神社

市営上飯田団地十六棟の前を、上飯田公園から飯田神社方面へ通ずる道がある。

鎌倉時代に、源頼朝が那須野や浅間山麓へ巻狩りに行く時、また弘安五年（一二八二）九月に日蓮上人が通ったといわれている鎌倉道（上の道）である。この道沿いで団地十六棟西側にある神社が上飯田の神明神社である。この写真のように、上飯田団地ができる前は水田に面した小高い丘陵の上に祀られていた。いつ頃この地に祀られたのかはわからないが、伝承では享保年間（一七一六～三五）に境川の氾濫が多かったことを憂い、当時の村人たちが社殿を再興して五穀豊穡を祈願したと伝えられている。本殿中宮は総けやきの三殿造りで、あまてらすみすめらがおおみかみ天照皇大神、応神天皇、春日大明神を祀る。

市営上飯田団地の造成には、神社周辺の丘陵部を切り崩して低地の水田を埋めるといふ工法がとられた。現在なら鎮守の森を存続させるために社殿を残したまま廻りを削り取るという造成方法も取れたと思うが、昭和三十八年代の社会環境下では無理であった。昭和四十一年三月四日、神



団地造成前の神明神社周辺

明神社はまだ造成工事が行われている最中に、五十mほど西方の新社地に遷座した。

小曲寺跡

上飯田地域ケアプラザの傍らの墓地に、小さなお堂があり、周りに十数基の立派な石塔が立っている。これは近くに数軒ある旧家、小曲家の墓地であるが、ここにはむかし鶴島山小曲寺という小曲家の菩提寺があった。

いつの時代か定かでないが、寺の本堂が傷んだので、本尊の阿弥陀様を寺の修復ができるまで、名瀬の西蓮寺に預けた。ところがある夜阿弥陀様が一族の長の夢枕に立って、「どんな粗末なお堂でもよいから建てて、元の所へ安置してくれ」と嘆願したという。一族の長は早速みんなと相談してお堂を建て、阿弥陀様を西蓮寺からお迎えして供養をしたといわれている。境内には板碑が数基ある。



小曲寺跡

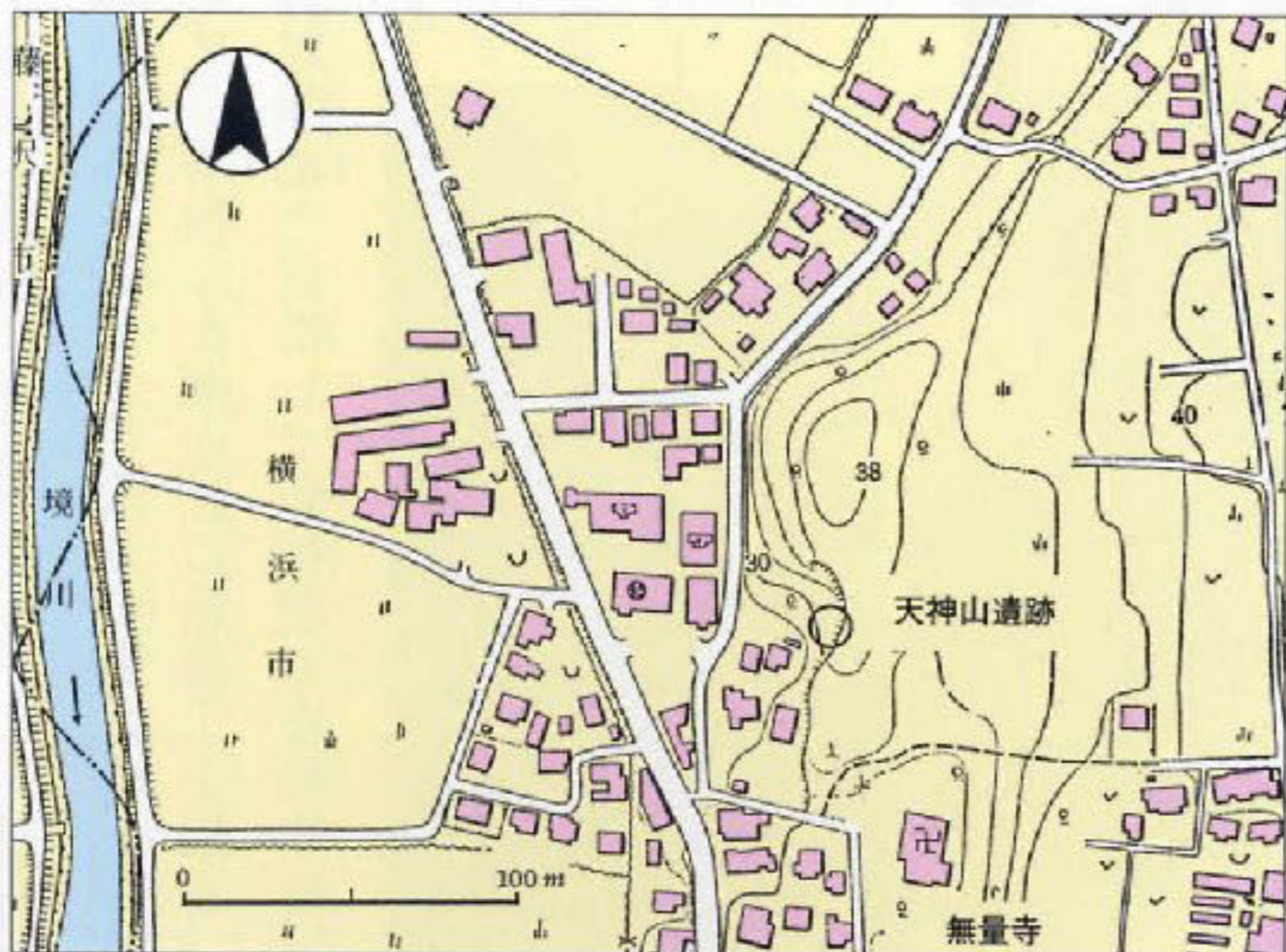
12

天神山遺跡と先土器時代

南農協飯田支所の裏山、昔から天神山と呼ばれているところから、先土器時代の遺跡が見つかった。

この遺跡は、調査の結果、石器は確認されなかったが生活に使うために運んできたこぶし大の焼けた河原石が見つかった。この河原石は五十〜百個を一か所に集めて食物を焼くのに用いられた「礫群」といわれるものである。

この場所は、境川の東岸で、川を見下ろす急な段丘の上に位置しており、中田南小学校遺跡や八幡山遺跡と同時期のものと考えられる。



天神山遺跡地形図